

令和7年1月10日

件名 前橋・高崎連携事業文化財展 東国千年の都 事前説明会の開催について

文化財保護課では、令和6年度前橋・高崎連携事業文化財展を下記の通り開催いたします。

内 容

- 1 展示会名称 令和6年度前橋・高崎連携事業文化財展 東国千年の都
『逸品 よく見りゃスゴい!』
- 2 開催期間 令和7年1月11日（土）～1月19日（日）
（開催時間 午前9時～午後6時）
※前橋会場（前橋市総社歴史資料館）は令和7年1月25日（土）～
2月9日（日）に開催（開催時間 午前9時～午後6時・月曜日休館）

また、上記展示会に先がけて、報道関係者向けの事前説明会を下記の通り実施します。参加される際は、事前に文化財保護課までご連絡ください。

- 1 場 所：高崎市シティギャラリー 第6展示室
- 2 期 日：令和7年1月10日（金）
- 3 時 間：午後3時から午後4時
- 4 内 容：展示会の内容について、担当者が説明

【本件に関する問い合わせ】

教育部文化財保護課

電話：027-321-1292

よく見い
スグーい!



令和6年度前橋・高崎連携事業文化財展



開催にあたって

平成19年度から開催している前橋・高崎連携文化財展も今回で18回目を迎えます。この展覧会では、両市の文化財についてテーマを定めて紹介しております。

今回は、両市の発掘調査で出土した数多くの遺物の中から、展示機会が少ないながらも是非皆さんにお目にかけたい品々を「逸品」としてご紹介いたします。

両市においては、毎年、数多くの発掘調査が行われており、それに伴い出土遺物も増加しております。その中で、新聞やニュースの話題になる遺物は限られており、その都度刊行される発掘調査報告書には掲載されますが、数多くの遺物たちが皆さんの目に触れる機会を待ちながら収蔵庫で保管されています。

今回の展示を通じて、出土遺物の中にはまだまだ数多くの「隠れた逸品」があることを知っていただくとともに、私たちが生活している地面の下にはまだまだ未知の「逸品たち」が隠れているということにも思いを馳せていただければ幸いです。



前橋市長
小川 晶



高崎市長
富岡 賢治



主催：前橋市・前橋市教育委員会、高崎市・高崎市教育委員会

後援(順不同 敬称略) 上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、(株)群馬よみうり、産経新聞社前橋支局、東京新聞前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ(株)、(株)ジェイコム埼玉・東日本群馬局、(株)エフエム群馬、(株)まえばしCITYエフエム、(株)ラジオ高崎、(公財)前橋観光コンベンション協会、(一社)高崎観光協会

❖ これぞ逸品



元総社蒼海遺跡群 梅瓶



石原稲荷山古墳 銅碗

元総社蒼海遺跡群(25)、桧峯遺跡、内堀遺跡群、石原稲荷山古墳、多比良吉ツ家遺跡、安坪3号墳

前橋市・高崎市では、それぞれ年間で20件前後の発掘調査を実施している。毎回、たくさんの出土品が見つかるが、これらをすべてをお見せすることはなかなかできない。出土品の中には「ちょっとこれすごいぞ」というものや、発掘調査後に調べていくうちに奥深い意味がわかったものもある。今回の展示では、担当者がぜひとも見てほしい!という思いから選んだ、「これぞ逸品」を紹介する。

❖ 土器の造形



稲荷森遺跡 東海東部系壺



五代深堀Ⅰ遺跡No.2
三原田類型



熊の穴Ⅱ遺跡 諸磯a式土器

五代深堀Ⅰ遺跡No.2、五代伊勢宮Ⅵ遺跡、横俵遺跡群熊の穴Ⅱ遺跡、見眼遺跡、稲荷森遺跡

各時代から出土する土器。粘土に熱を加えると器ができることを最初に知ったのは縄文人だ。縄文時代の各時期で形や文様が変化し、創造的な縄文土器が創出された。とりわけ縄文時代中期には制作技法と施文方法は高まりを迎える。縄文時代に発明された土器は後続する弥生時代以降も作られ続け、同じ粘土から制作されたとは思えないほど異なる。

粘土を材料に思いのままの形となる土器をつぶさに観察すると各時代特有の器形や文様が浮かび上がってくる。

❖ アクセサリー



安通・洞No2遺跡 耳飾り

鼻毛石中山遺跡、五代伊勢宮Ⅵ遺跡、安通・洞No.2遺跡、八幡遺跡、若田坂上遺跡、水沼寺沢遺跡、長者屋敷天王山古墳

ここではペンダントに耳飾り、プレスレットを紹介したい。

まずは縄文時代のヒスイのペンダント。硬い石材であるヒスイに穴を開けてペンダントにしている。穴を空けた縄文人の技術力の高さが観察できる。同じく縄文時代の耳飾りは細かい造形に目が奪われる。



鼻毛石中山遺跡
ヒスイ大珠



若田坂上遺跡 鉄釧

銅は弥生～平安時代のプレスレットである。弥生時代は貴重な金属である鉄をアクセサリーに加工していた。死者に身につけて葬っていたようである。

❖ 銀象嵌の美



お春名古墳 銀象嵌製品
鞘尻金具



上細井中西部遺跡群
銀象嵌罎

上細井中西部遺跡群、上庄司原古墳群、山名原口Ⅱ-2号墳、お春名古墳、東シメ木2号墳

象嵌とは、金や銀などをはめ込んで模様にする技術のことで、象は「かたどる」、嵌は「はめる」という意味。鉄の地金に溝を掘り、銀の針金をはめ込んで、細かい文様を施している。古墳には、銀の象嵌を施した刀などが副葬品として納められた。出土した時には錆びのために文様はわからないが、X線撮影やサビ落としをすることで文様が浮き出てくる。

今でこそ錆びているが、つくられた当時は黒く輝いた鉄の地金に銀色の文様が光り輝いていたことだろう。

❖ 鍛冶工房



友成遺跡 鋤杖頭鋳型



元総社蒼海遺跡群 鍛冶工房と炉断面

元総社蒼海遺跡群 75 街区 No.2、友成遺跡、御殿遺跡

9 世紀から 10 世紀にかけての遺構で、密教法具や小金銅仏等の仏教系の鋳型が出土品の主体となる。埴塼や取瓶等の金属を融解させる際に使用する容器や金箔片、金床石の出土、遺構は複数の土坑やピット、炉が認められることから、鋳型作成から鋳込み、表面に金箔を貼り付ける仕上げ作業まで一貫して行っていたことが判明している。(元総社蒼海遺跡群)



元総社蒼海遺跡群
鉄滓の付着した瓦が廃棄された土坑と金箔

元総社蒼海遺跡群は上野国分寺や国分尼寺、御殿遺跡は赤城山南麓の山岳系寺院といわれる宇通遺跡に近接していることから、仏教の民衆への普及と寺院近接集落での生産体制がうかがわれる。

❖ 古代の鏡「八稜鏡」



水沼寺沢遺跡
八稜鏡



天田川押遺跡
八稜鏡

元総社蒼海遺跡群(137)
八稜鏡

元総社蒼海遺跡群 (137)、正観寺遺跡群、天田川押遺跡、下大類遺跡、水沼寺沢遺跡

八稜鏡とは、鏡の縁の形を 8 枚の花弁でかたどった鏡のことである。中国の唐の時代に流行したものが、朝鮮半島、日本へと伝わり、奈良・平安時代に多くつくられた。

鏡の裏面に描かれた文様の多くは一对の花と鳳凰をあしらったもので、瑞花双鳥八稜鏡と呼ばれている。

ツルツルの顔が映る方の面が表面である。現在はさびて輝きを失っているが、鏡がつくられた当初はピカピカに輝いており、のぞいた顔もきれいに映ったことだろう。

❖ 小金銅仏



さまざまな小金銅仏

元総社蒼海遺跡群 (91)、(145)、宇通遺跡、道場遺跡、剣崎稻荷塚遺跡、宿大類村西遺跡

小金銅仏は、銅に錫や鉛などを混ぜた合金で鋳造されたもので、表面は鍍金されている。群馬県内では他に上野国分僧寺・尼寺中間地域、渋川市有馬遺跡、有馬条里 2 遺跡などからも出土しており、寺院や経塚跡、山岳信仰等の祭祀跡など仏教に関連した遺跡からの出土が多い。個人の念持仏や寺への寄進に用いられていたと考えられるが、平安時代後半に武士が台頭してくると、兜仏や鎧仏といった、自身の守り仏として甲冑の中に所持する行為が見受けられるようになる。

❖ 祀りと吊いの坑



菅谷遺跡群菅谷高畑遺跡 木棺墓

元総社蒼海遺跡群 (137)、菅谷遺跡群菅谷高畑遺跡

元総社蒼海遺跡群 (137) の埋納土坑からは、鏡、鈴、鐸、雁股鏃等が出土した。同時期の住居跡からは、八稜鏡や地鎮との関連が指摘される法輪状暗文碗が出土。いずれも祭祀的な埋納行為が想定される。



元総社蒼海遺跡群
埋納土坑と鏡・鐸出土状況

菅谷遺跡群菅谷高畑遺跡の木棺墓は骨片と共に頭位に須恵器や灰釉陶器、足位に鉄鏃を 13 本副葬している。9 世紀代の木棺墓に鉄鏃を束で副葬する例は極めて珍しく、被葬者像が影響したものだろうか。

どちらの遺構も願いや怖れ、吊いを坑を掘り埋める行為で表現しており、出土遺物からは当時の人々の想いが感じられる。

❖ 北陸からやってきた



豊岡後原Ⅱ遺跡 脚付鉢



旭久保C遺跡 深鉢

旭久保C遺跡、中尾根遺跡、元島名將軍塚古墳、豊岡後原Ⅱ遺跡、八幡遺跡

土器は時代・製作地などを反映する出土品である。土器を研究することによって、遺跡の年代や流通を理解することが可能となる。

今回取り上げたのは、北陸地方からやってきた土器である。縄文時代からわずかに土器が搬入され、弥生時代から古墳時代へ変化する3世紀（今からおよそ1700年前）は土器も人も動いた大変革の時代であった。ここでは遠く北陸地方から群馬に持ち込まれた土器を紹介する。

❖ 何だコレ？



御布呂遺跡Ⅱ 鳥肉塊



石原坊主山古墳 女子人物小像



三角湾形土製品
左：横俵遺跡群大道遺跡
右：五代伊勢宮Ⅳ遺跡

五代伊勢宮Ⅳ・Ⅵ遺跡、横俵遺跡群大道遺跡、下里見宮谷戸遺跡Ⅱ、石原坊主山古墳、安坪遺跡Ⅲ、御布呂遺跡Ⅱ、萩原団地遺跡

発掘調査を進めていると、目にすることや触れることの少ない遺物に出会うことがある。「本で見たことがある」遺物を目の前にすると、制作した意図や使用方法について思いを巡らす。「三角湾形土製品」や「木の葉形土製品」など不思議な形であり、現代に生活する私たちには、制作者や使用者の心を掴むことは難しい。

その一方で、御布呂遺跡Ⅱの鳥肉塊に代表されるように、通常は残らない資料と出会うことがある。両市の発掘調査が始まり約40年以上が経過し、着実に資料は蓄積されている。それでもなお、「何だコレ？」と思わず呟く資料は足元に潜んでいる。

前橋市

- | | | | | |
|---------------|------------|---------|--------|----------|
| ①元総社蒼海遺跡群 | ④五代伊勢宮Ⅵ遺跡 | ⑦横俵遺跡群 | ⑩友成遺跡 | ⑬宇通遺跡 |
| ②五代伊勢宮Ⅳ遺跡 | ⑤上細井中西部遺跡群 | ⑧内堀遺跡群 | ⑪白藤古墳群 | ⑭鼻石中山遺跡 |
| ③五代深堀Ⅰ遺跡 No.2 | ⑥桧峯遺跡 | ⑨安通・洞遺跡 | ⑫御殿遺跡 | ⑮上庄司原古墳群 |
| | | | | ⑯見眼遺跡 |
| | | | | ⑰旭久保C遺跡 |

高崎市

- | | | |
|---------------|-------------|----------|
| ①石原稻荷山遺跡 | ⑪水沼寺沢遺跡 | ⑲道場遺跡 |
| ②多比良壺ツ塚遺跡 | ⑫長者屋敷天王山古墳 | ⑳剣崎稻荷塚遺跡 |
| ③安坪3号墳 | ⑬菅谷遺跡群 | ㉑宿大類村西遺跡 |
| ④御布呂遺跡Ⅱ | ⑭中尾根遺跡 | ㉒正親寺遺跡群 |
| ⑤萩原団地遺跡 | ⑮元島名將軍塚古墳 | ㉓天田川押遺跡 |
| ⑥下里見宮谷戸遺跡Ⅱ | ⑯豊岡後原遺跡 | ㉔下大類遺跡 |
| ⑦石原坊主山古墳 | ⑰稻荷森遺跡 | |
| ⑧安坪遺跡Ⅲ | ⑱高崎情報団地Ⅰ遺跡 | |
| ⑨八幡遺跡 | ⑲山名原口Ⅱ遺跡Ⅱ号墳 | |
| ⑩若田坂上遺跡・金堀塚遺跡 | ㉑お春名古墳 | |
| | ㉒東シメ木Ⅱ号墳 | |



高崎会場

高崎シティギャラリー2階 第6展示室
[〒370-0829 群馬県高崎市高松町 35-1]

前橋会場

前橋市総社歴史資料館学習室
[〒371-0852 群馬県前橋市総社町総社 1584-1]

令和7年

1/11^土~1/19^日

●午前9時~午後6時

令和7年

1/25^土~2/9^日

●午前9時~午後6時（月曜日休館）